



# 岡田

学校教育目標

10年間を見通した確かな学力と  
豊かな人間性の育成

目指す子ども

ふるさ加佐を愛し 夢 未来に向かって歩み続ける子ども  
~笑顔で いきき 自分から~

平成31年1月31日

舞鶴市立岡田小学校  
学校だより No.12

<http://okada-es.maizuru.ed.jp>

## みんな、給食大好き! ?

【楽しい風あげ】

雪もなく、穏やかな1月でした。「1月は行く」といいますが、あっという間に2月を迎えました。全国的にインフルエンザが大流行し、舞鶴でも学級閉鎖をする学校もありましたが、岡田小学校では流行することはありません。しかし、まだまだインフルエンザのシーズンが続きますので油断は禁物です。規則正しい生活に気を付け、感染防止対策に万全を期していきたいです。

52日間の3学期の中でもやはり2月は短く感じます。行事やその準備と同時に学年のまとめに向けた取組も本格化し、2月は、「逃げて」いくように過ぎていくでしょう。慌ただしさに負けないよう、腰を据えた学校生活を目指したいです。

1月21日(月)から25日(金)は給食週間でした。学校給食は、明治22年に山形県の鶴岡町(現:鶴岡市)の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちのために無償で始まったとされています。その後、給食は大正12年頃から各地に広まり始めますが、関東大震災や世界恐慌の影響で日本経済は大不況に陥り、「児童の貧困」が問題となりました。国庫からの給食費補助だけでは全国の児童数分はまかなえず、やがて第2次世界大戦に突入、激化すると日本は給食どころではなくなります。国民の多くがその日の食べ物にも困る生活が長く続き敗戦。しかし大戦終結後に、アジア救済連盟やユニセフ、占領地域救済資金の支援を受け、学校給食は急速に全国へと広がっていきます。そして、昭和26年には全国の小学校で給食が開始されました。当時日本は豊かな国ではありませんでしたが、児童の健康を考え健やかな成長を願って始まった学校給食は、130年の時を超え、工夫・改善されながら現在に至っています。

山形県鶴岡町で始まったときのメニューは「おにぎりと漬物と塩鮭」でしたが、「ご飯とみそ汁」「シチューと脱脂粉乳」などメニューも時代とともに変化しました。「グジラ肉の竜田揚げ」や「ビン牛乳」などもなつかしく思い出されます。中には「脱脂粉乳」に苦勞された方もおられるのではないのでしょうか。今は「パン(ご飯)と大おかず、小おかず、デザート、牛乳」と品数も多く、グリル調理や揚げ物、炒め物、蒸し物、焼き物など調理方法も様々。「地産地消」や「まるごと京都の日」など食材を工夫したり「各国の伝統的な料理」があつたりするなど、食育の一環として献立も工夫されています。

給食集会で「世界の給食」の話をしました。それぞれの国の食文化や特産物を活かしたメニューや味付けなど、日本との違いも多いですが、中にはフライドポテトやフライドチキン、チョコミルク、ピザなどいかにも子どもが好きそうなメニューもあり、思わず「いいなあ、おいしそう…」といったつぶやきも聞こえました。最近では、子どもたちの健康を意識して学校給食の改善に取り組む国も増えてきており、健やかな成長を願う気持ちを込めた給食作りがされています。しかし、国の事情によっては豆やコーンのスープだけだったり、パンのみの給食だったり、給食そのものがなかつたりする国もあり、世界的な学校給食の様態は千差万別です。給食週間では、



【栄養士による栄養指導】

栄養士が栄養の三大栄養素や3つの食品群、排便の仕組み、カルシウムの働きなどの話をしながら、ワークシートを使いながら学習しました。また、給食調理員の方々や、食材を準備してくれる方、地域のおいしく安全な野菜を準備してくれる方々に感謝することの大切さも学びました。

米作りや小豆の栽培・収穫など体験学習でお世話になっている地域の方からお手紙をいただきました。「どんな野菜や果物でも、自然に実って生長し、食べられるようになるのではない。世話や手入れをして、大切に育てて初めて食材になる。心を込めて作ってくださる農家の方々に感謝して、残さずしっかり食べてほしい。体験したことはもちろん、いろいろと学校で学んだことを下の学年に上手に伝えてほしい。」という内容でした。学校生活ではたくさんの人やものに支えられています。お世話になっている方々への感謝状を通して気持ちを伝えるとともに、地域の願いにこたえる学校でありたいと思います。



### 小中一貫で子どもを育てる・⑪ 中学校で授業研究会

1月30日(水)に、加佐中学校の1年生の理科「身の周りの物質」の公開授業により、小中一貫教育の授業研究会を実施しました。混合物(石油)を物質に分ける実験に取り組んでいました。自分から動き出す児童・生徒の育成を目指して、共同学習の中で生徒同士が自分の考えをしっかりと出し合い、楽しく学習する姿が見られました。物事を探究する楽しさも、小学校のうちから身に付けさせたい力です。

校長 波多野 暢 教職員一同

